

# コスモス 1月号

第70巻 第1号

◆宮柁ニカレンダ―(34) 一月の歌

正月の珍うづのひかりに机うづ上なる白秋陶像をわれ  
は拝する  
歌集『白秋陶像』

『白秋陶像』は第十二歌集。昭和六十一年の「文芸春秋」に掲載された小題「病みつつわれは」八首の中の一首。このときは五首目に載っているが、『白秋陶像』では最後に置かれていて、柁二の全集の最後の歌でもある。六十年の十一月、柁二は自宅で転倒し骨折のため虎の門病院で手術、年末退院。作歌はこのころだろう。初句二句から白秋陶像が尊い光の中にあることがわかる。日々陶像を拝することとで心が穏やかになったのだろう。柁二はこの年六十二年十二月に没している。(水上 芙季)